

会員同士の連携強化のため誌面を刷新しました

（会員への大切なお知らせです）

会員各位

2009年5月14日

同窓会会長 城 和裕

定期総会開催のお知らせ

2009年度の定期総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 日時 2009年6月20日（土）午後1時30分
2. 場所 母校4階視聴覚ホール
3. 議題

- 第1号議案 2008年度事業報告
 第2号議案 2008年度収支決算および会計監査報告
 第3号議案 2009年度事業計画
 第4号議案 2009年度収支予算
 第5号議案 本会規約の一部変更
 第6号議案 役員選任
 報告事項 教育支援基金の運営状況および基金特別会計の収支について

以上

上記の議案、報告事項につきましては本誌の5頁以下に議案資料を掲載してありますので、ご覧ください。

本総会終了後、甚だ簡素でありますがお懇親会を予定しております。しばらくの間ご挨拶くださいますようお願いいたします。また、母校の新校舎落成に伴う校庭グラウンドの整備が完了しました。この機会に、ご視察いただきたく、併せてお願いします。



都立石神井高校
同窓会広報誌
「きずな」
第58号

2009年5月発行

発行人 城 和裕
編集人 佐藤 健
印刷所 御文明社
発行所
都立石神井高校
同窓会事務局
〒164-0002
中野区高田1-14-7
(石神井倶楽部)
TEL.03-3319-1122

同窓会への手紙、投稿、電話などの場合のお願いについて

同窓会と言いますと、母校で運営しているようにみえますから、手紙や電話も学校宛にすればいい、と思いがちですが、母校に専門の受皿（人員・施設）があるわけではありません。教職員が好意的に届いた書類、受けた電話を取り次いでくれるだけです。遅延、紛失などの問題が生じます。

母校事務室に箱があって、時々同窓会役員が、その中の手紙・文書類を取りに行くという状況なのです。これで、いろいろな懸念が考えられますが、どうしようもないというのが同窓会の本音であります。

会員からの連絡、通信には次のルートを使っていただくことが確実であります。この際、なるべくなら、書状、ファックス、メール等文書として残る方法をお願いします。

【宛先】都立石神井高校同窓会事務局 〒164-0002 中野区上高田1-14-7「せいとう」本内 石神井倶楽部
Tel&Fax:03-3319-1122 E-mail:jo-k@seitow-aoshima.co.jp ホームページ: <http://www.shakujii-club.gr.jp>



定期総会開催のお知らせ	1	山荘通信	15
ご挨拶	2	母校の近況報告	16
総会議案資料	5	生徒の活動状況	17
現行同窓会規約(全文)	11	お元気かしら、あの先生	19
教育支援基金事業運営規則	13	投稿記事	20
「同窓会の輪」の動き	14	お願い、編集後記	24

ご挨拶

同窓会会長 城 和裕 (高12回)

会員の皆さま、お変わりありませんか。未曾有の不況を反映してか、我々の周囲には心を暗くするような事件が次々と起きております。こうした中、母校には明るいニュースがありまして、今年の入学試験の競争倍率が都立高の中でも最高水準を示したとのことであります。新校舎の竣工を契機とする学校側の積極的な施策が効を奏したものであり、まことに慶賀に堪えません。

同窓会では昨年、教育支援基金を立ち上げ、会員の皆さまに資金の拠出を要請しましたところ、多数の恩師、卒業生の皆さまから浄財を寄せていただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

基金の目的に沿って有効に使用してまいる所存であります。なお、この事業は3年間継続していきますので、会員の皆さまには今後ともご後援のほど、よろしくお願いします。

なお、本会名誉会長の福本雄吉先生(前校長)は、この3月に定年を迎えられ母校を去られました。ご在任の4年間、本会の諸活動に深い理解を示され、新卒業生の本会入会勧奨に尽力くださったのであります。また、黒髪山荘の存在意義を高く評価され、何度となく山荘に行かれたことは、歴代校長先生の中でも稀なる事柄と考えるところであります。同先生の今後のご活躍を祈念するとともに、同窓会を代表して厚く御礼申し上げます。

さて来年、我が石神井は創立七十周年を迎えます。人間でいえば古稀に相当しますが、お蔭で、本会会員も2万4千人を超え、全員が同じ学び舎で通したという共感を持つ大組織となっております。

申すまでもなく、本会は会員の親睦と連携を深めることを本旨としております。皆さま方におかれては、同窓会に対して関心を寄せられ、引き続きご支援ご鞭撻をお願いする次第であります。

平成21年5月2日

お別れのご挨拶

前校長 福本雄吉



本校に4年間勤め、この三月に定年退職を迎えました。おかげさまで、この間、高橋元会長・林前会長・城会長他役員の皆様のご理解ご支援を得て、同窓会との「きずな」が、強まり、広がり、深くなったものと思っています。ありがとうございました。御礼申し上げます。

皆様の母校は新校舎も完成し、グラウンドや体育館もすべて新しく整備され、見違えるように立派になりました。標準服の導入、土曜日授業の実施、語学研修の開催、毎日の研修指導、P.R活動の拡充、日々の環境整備等についての教職員の大きな努力もあって、今や全都立高校の中でも屈指の人気校になっています。

同窓会の資金で調製していただいた、校章を基にデザインしたエンブレム付きクリアファイルも人気の一助となりました。有り難く思っています。また、昨年度の沖縄修学旅行では、現地在住の同窓生の協力があり、琉球民族舞踊や音楽も鑑賞することができました。PTAの研修やスキー部の合宿についても、山荘委員会に毎年お世話になるなど、同窓会とのきずなが年々深まっています。(今年も、猛吹雪の中、冬の日も体験しました。)

昨年には、同窓会におきまして「教育支援基金」を立ち上げていただきました。創立70周年を間近に控えています。同窓生皆様のご支援をぜひともお願いしたいと思います。部活動の各OB会組織にも所属会員に積極的に呼びかけていただいて、後輩たちの充実した教育活動支援のためにご尽力いただければ幸いです。

これからも、同窓生皆様の一入ひとりが教育支援基金への拠出等を通じて母校との「きずな」をさらに深めていただき、発展していく母校を支え、応援していただければ、たいへん心強く、有り難く思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成21年5月8日

(ご本人のプロフ)

1941年8月11日生・巳年・獅子座・O型



職歴

外資企業の経営一筋

趣味

旨いもの探し、特にシシリーワインを好み、毎年現地で試飲満喫している。
ゴルフ、旅行
(好きなタレント)
もちろん、宝塚女優の玉城あけみさん

(ご本人のプロフ)

1948年11月29日生・子年・射手座

趣味 つり、旅行

すべてに感謝、感謝

前経営企画室長 重田美奈子

2月28日付朝刊の都立高校入試の記事をご覧になりましたか。全日制普通科で実質倍率がもっとも高かったのは、男子…女子は石神井の2.2、1.2倍。この輝かしい一文です。

嬉しくて何度も本当かしらと確認しました。ついでに「しゃくじい」と振り仮名を付けていただくこと、もっと良かったのにも思いました。

本校へ来てからの3年間を振り返ると、まさに変革の海原にいたこととなります。プレハブ校舎での生活、新校舎への引越し、グラウンドの工事開始と休み暇もありませんでした。卒業生の皆様には、昔の懐かしい校舎やグラウンドの面影がなくなって寂しい思いもあることでしょうか。あんな時代もあったよね、と昔の仲間と言ひあうのではないのでしょうか。でも、そういう貴重な時代があったからこそ、今の新校舎・新グラウンドができたのだと思います。これからは、この校舎やグラウンドを在校生とともに愛しみ、これからやって来る新入生に本校で学び、スポーツができてよかった、と思われるような学校として存続させていくことをお約束します。近くにいらしたときにはお立ち寄りください。

また、昨年6月に「教育支援基金」が設立されました。多くの方々が発起人になっていただき、本校の教育活動を支援してくださいませ。本当に感謝感謝です。学校としてはこの貴重な基金を、生徒に還元できる形で効果が最大限に働けるような事業に使わせていただく予定です。（もちろん、公開！です。）今後ともぜひ皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

最後に、同窓会の皆様とは今後とも情報交換をさせていただき、末永いお付き合いをよろしく願ひいたします。

平成21年5月14日

新校長着任のご挨拶

校長 小池 幸彦

同窓会会員の皆様、私は福本雄吉校長先生の後任として、4月1日付で本校に着任いたしました小池幸彦と申します。以後、よろしくお願ひ申し上げます。

前任校は浅草高校という単位制・三部制の学校でした。開設準備2年間を経て開校し、この3月に初めての卒業生を出してから本校に異動となりました。浅草高校は新設校であったので、何もかもが初めてのことばかりで、毎日が試行錯誤の連続でした。しかし、石神井高校は来年で開校70周年を迎える伝統校です。長い歴史と伝統を大切にしながら、新しい試みも打ち出していかなければならないと存じます。微力ではございますが頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。はなはだ簡単ではございますが、着任のご挨拶とさせていただきます。

〈同窓会から一言〉

初めまして、よろしくお願ひします。福本前校長のご努力もあって、本校では同窓会と学校との連携がとれており、この伝統を継承強化するよう、共に努めていきたいと思ひます。

〈ご本人のプロフ〉

19××年9月19日生・乙女座



職歴

東京都の総務局・知事室・港南局・主税局勤務を経て本校着任。

趣味

学校の図書館で借りた本を通勤電車内で読むこと。
(好きなミュージシャン)
ミスチル サザン (泣ける歌が大好き)

〈ご本人のプロフ〉

1952年6月23日生・辰年・蟹座



趣味

クラシック音楽・旅行・スキー

経営企画室長着任のご挨拶 経営企画室長 上野 政明

同窓会会員の皆さま、初めまして。このたび、両国高校(附属中学校併設)から異動してまいりました経営企画室長の上野政明です。これまでの学校勤務は、戸山(定)、台東南、浅草、両国の各校です。現在、3歳になる子供(女の子)がいます。今は子供と遊ぶのがとても楽しく感されています。子供に遊んでもらえるのも今のうちだけと思っています。いろいろあるかと思いますが、よろしくお願ひ致します。

(ご本人のプロフ)

1967年2月4日生・現在42歳・未婚・水稲産



趣味

言うほどのものは特になく、休日に子供と公園や買い物に行くことに幸せを感じている。

(同窓会から一言)

初めまして、よろしくお願ひします。前任者の蓮田美奈子さんは個性豊かな人だった、というのが同窓会の評価です。上野さんにも、まずは黒髪山荘へお嫁さまとお出かけくださるよう、山荘委員会でお待ちしています。

一年経ちました

副校長 宮地 みち子

本校に赴任して一年が過ぎました。同窓会の皆様には大変お世話になりました。まさに、石神井の「絆」を感じております。

歴史のある学校には、しっかりとした同窓会があり、学校を支援してくれていることがよく分かりました。初めて管理職を務めた日黒高校も、同窓会の事務局が整っており、野球部の応援や文化祭への参加協力等様々な支援をいただいております。それぞれ歴史のある学校の強い「絆」を感じています。

昨年7月に、1泊2日のPTA黒髪山荘見学ツアーに参加させて頂きました。福本校長先生の熱心なお誘い、重田室長、定時制副校長の清水先生と一緒に参加し、雄大な山容、温泉、美味しいそば、美しいゆり園、などなど夏の白馬を楽しみました。8月に今度はプライベートで行って「対価館」に宿泊し、皆さんに親切に対応して頂き、すっかり白馬が気に入りました。

これからも、見学ツアーを継続し、貴重な石神井高校の校外施設である黒髪山荘の有効活用について、PTAの皆様や教職員に呼び掛けて参りたいと考えています。

昨年度は、同窓会の本会計からの支出で本校エンブレム付きのクリアファイルを作成して置き、学校説明会等で効果的なPRができました。また、昨年スタートした教育支援基金から補助金を頂戴し、国内語学研修宿泊所として有名な「ブリティッシュヒルズ(福島県新白河)」に3月27日から2泊3日で佐藤主幹教諭と生徒を引率してきました。

ゲートをくぐるそこは英国の古い街並みがそのまま再現されており、広大な敷地内は館を中心に18世紀の建築物が並んでいます。外国人スタッフがほとんど、どの研修もすべて指導は外国人、英語だけで授業が行われます。となりのテーブルには都立小平高校の生徒が80名程ズラリ! ちょっとうらやましくなりました。

本校も国内語学研修の参加者を増やし、将来的には、海外語学研修にも目を向けて行きたいと考えています。幸い今年度、千早高校から海外研修に経験のある教諭が異動して来ました。石神井にもチャンス到来! その節は、同窓会のご協力とご支援をお願い申し上げます。

(ご本人のプロフ)

1951年1月11日生・幼年・山羊産・O型



家族

夫と他所で一人暮らしの28歳の息子

教員経歴

73年大分県から7校(管理職では3校、経験8年目)で経験十分と自負

趣味

音楽鑑賞(最近は中国の二胡)、旅行(特技)弓道とベンチ初級

2009年度定期総会 議案資料

1. 日 時 2009年6月20日(土) 午後1時30分
 2. 場 所 母校4階視聴覚ホール

議 題

- 第1号議案 2008年度事業報告
 第2号議案 2008年度収支決算および会計監査報告
 第3号議案 2009年度事業計画
 第4号議案 2009年度収支予算
 第5号議案 規約の一部変更
 第6号議案 役員選任
 報告事項 教育支援基金の運営状況および基金特別会計の収支報告について

第1号議案 2008年度事業報告

2008年(平成20年)度を実施した主な事業、行事は以下のとおりである。

- 4月8日 母校入学式に林顧問、城会長、大久保副会長、勝見副会長が来賓として出席
 15日 役員会開催(定期総会準備、「きずな」編集)、会計監査実施)
 5月2日 「きずな」編集会議
 12日 三者協議会(母校、PTA、本会の三者による協議体)の関係者歓迎宴会
 20日 きずな第57号を発行、会員へ送付(15000部)
 31日 母校体育祭を役員視察
 6月3日 役員会開催(総会、懇親会の打ち合わせ)
 14日 本年度の定期総会を母校において開催し、提出した第1号議案から第5号議案まで出席者全員異議なく了承(議事資料は本誌第57号に掲載、出席会員数60名)。本総会終了後、新校舎食堂において懇親会を開催、盛会裡に終了
 7月9日 役員会開催(教育支援基金、総会議事録関係)
 8月5日 役員会開催(教育支援基金、母校に寄贈するクリアーファイルに関し協議)
 9月25日 受験志願者向けのクリアーファイル6500部を母校に寄贈
 27日 母校文化祭を役員視察
 10月4日 日比谷公会堂で開催された第16回東京校歌祭に出演(本会会員40名参加)。終了後の懇親・反省会は大いに盛り上がった。
 18日～19日 第2回同窓会の輪を里菱山荘で開催(他校関係者5名、母校校長、教員4名、本会役員2名、本会会員3名の参加)
 27日 役員会開催(教育支援基金、「同窓会の輪」、来年のきずな発行に関する問題)
 11月12日 三者協議会開催(母校創立70周年記念行事に関する協議会の立ち上げについて合意された)
 12月2日 第3回同窓会の輪を開催(前回の経過報告、次期の幹事校は大泉高校に決定)
 (2009年)
 1月22日 役員会開催(教育支援基金、年会費納入促進策、きずな編集)
 2月13日 役員会開催(教育支援基金、同窓会会員名簿刊行、きずな編集)
 3月7日 母校卒業式に林顧問、城会長、勝見副会長が来賓として出席。
 この席上で、本会から定時制を含む卒業生全員に対し栄大樓製の祝い菓子(実態は「紅白饅頭」)を贈呈
 12日 役員会開催(教育支援基金、名簿刊行、きずな編集、総会関係等)
 19日 三者協議会開催(創立70周年記念行事関係)
 (教育支援基金に関する事項は別途報告)

第2号議案 2008年度収支決算 会計監査報告

2008年度の本会の収支決算は、別表「2008年(平成20年)度収支決算報告」のとおりである。

第3号議案 2009年度事業計画

2009年度に実施する主な事業、行事は以下のとおりとする。

- 4月 母校入学式に会長その他役員が来賓として出席
第4回同窓会の輪開催
役員会開催(教育支援基金、総会への対応、きずな原稿の最終確認)
- 5月 第58号きずなを発行、会員へ送付
三者協議会の関係者歓迎宴会
役員による母校体育祭視察
- 6月 定期総会、懇親会開催
- 7月 役員会開催(教育支援基金、創立70周年記念行事等)
- 9月 役員会開催(教育支援基金、同窓会の輪、校歌祭等)
- 10月 4日開催予定の東京校歌祭に出演参加(現役生徒、OB吹奏楽部、本役員、会員総勢40名程度の参加を見込む)
第5回同窓会の輪開催
- 12月 役員会開催(来年度事業計画案等)
(2010年)
- 2月 役員会開催(総会対応、決算、予算等)
- 3月 母校卒業式に会長その他役員が来賓として出席
その際、卒業生に記念の祝い菓子を贈呈
役員会開催(総会対応、きずな関係)

なお、役員会は上記の他、必要に応じ随時開催

第4号議案 2009年度の収支予算

2009年度の収支予算は別表「2009年(平成21年)度収支予算」のとおりとする。

第5号議案 規約の一部変更

変更理由 本会の事業運営の円滑化のため、現行の同窓会規約における役員選任条件および定期総会の開催時期に関する規定を、以下のように一部変更する。

- 1 第10条関係 現行の規約第10条において、本会の役員は通常会員の中から総会において選任することと規定している。一方、母校(旧制中学を含む)卒業生であって現に母校の教職員である者および過去に教職員であった者は、規約第5条の会員資格に関する規定で「特別会員」に属することとされており、これを役員に選任するについては、規約の解釈上疑義が生じる恐れがある。
よって、会員選任に関する規約第10条第2項に「ただし書き」を設け、第5条第2項の会員資格に関する規定を適用するに際しては、母校(旧制中学を含む)卒業生であって現に母校の教職員である者および過去に教職員であった者は「通常会員」とみなすこととする。
- 2 第18条関係 現行の規約第18条において、定期総会は、毎年度終了後3か月以内に開催することと規定しているが、往々にして開催場所となる母校施設の利用可能日の見きわめが困難な場合が生じる。よって、開催期限の範囲を拡大し弾力的対応を可能とするよう、条文の一部を変更する。

これらの規約の一部変更は2009年(平成21年)6月20日から施行する。

参考として「同窓会規約新旧対照表」参照

第6号議案 役員選任

現在の役員は本総会終了をもって任期満了となるので、改めて役員を選任する。新役員候補者は以下のとおりである。

会 長	城 和裕(高12回)	会 計	森 肇夫(高8回)	
副 会 長	大久保利一(高17回)	会 計	上野 俊彦(高17回)	新任
副 会 長	藤見 鈴代(高20回)	書 記	竹村 洋子(高17回)	
副 会 長	板谷 方彦(高27回)	書 記	山下 章(高19回)	新任
副 会 長	浦川 伸一(高32回)	会計監査	栗山 隆(高12回)	新任
		会計監査	広瀬 由貴(高39回)	新任

なお、以下の各氏には引き続き本会の事業運営に参画し、会員の連携強化にご尽力いただくこととしたい。

佐藤 健(高3回)	石川 和寿(高9回)	石田 弘行(高16回)
橋本 恒夫(高20回)	加藤(石水)純子(高30回)	泉水 裕二(高33回)

2008年度の教育支援基金事業について(報告)

昨年6月14日開催の定期総会で承認され、発足した本事業は、2008年度中に257人から合計233万9千円の拠出があった。ご厚志に対して深甚なる謝意を捧げるところである。

特に申しあげたいことは、募金を開始して早々にも、93歳になられる恩師寺島政一先生から20万円の拠出を頂戴したことである。我々は先生の現役生徒に対する深い愛情の発露に感激し、本事業が所期の成果を得られるよう努めていく所存である。

なお、本年度中に受入れた資金については、本年3月末までに、以下のような使途(3件)に支出した。

- | | |
|----------------------------|---------|
| 1. 2年生の沖縄修学旅行に際して現地講師への謝礼金 | 55000円 |
| 2. 校庭で使用する防護用ネット | 420000円 |
| 3. 生徒研修派遣費用の補助(福島の英語村) | 80000円 |
| 以上3件の合計支出金額 | 555000円 |

この結果、受入金額(収入)から、上記の支出金額および振替手数料を差し引いた残金1752890円は、次年度へ繰越し、2009年度の支出に充当することとする。

なお、本会では厳正な資金の管理と支出を図るため、別掲のとおり、「教育支援基金事業運営規則」を定めた。この規則にもとづき、会長、副会長、母校の校長、副校長および経営企画室長をもって運営管理委員会を組織し、基金支出案件の可否を決定している。

2008年度基金特別会収支報告書

収入の部	金額(円)	備 考
受入拠出金A	2339000	拠出者257名
支出の部	金額(円)	備 考
教育支援支出	555000	資金使途3件
支払手数料	31110	郵便口座振替手数料
支出金合計B	586110	
収支差額A-B	1752890	次年度への繰越金

以 上

別紙 同窓会規約新旧対照表

変更後	変更前
<p>(会 員)</p> <p>第5条 本会は、次に掲げる者を会員とする。</p> <p>1. 母校ならびに東京都立石神井中学校(旧制中学)の卒業生およびこれらの学校に在籍したことのある者のうち本会へ入会を希望した者(以下、これらの者を「通常会員」という。)</p> <p>2. 現に母校の教職員である者および過去に教職員であった者(以下、これらの者を「特別会員」という。)</p>	<p>注 本条の変更はないが、他の変更条項に関連があるので、参考として掲出。</p>
<p>(役員の選任)</p> <p>第10条 役員の選任は、次のとおりとする。</p> <p>1. 略(変更なし)</p> <p>2. 会長、副会長、会計、書記、会計監査は、通常会員の中から総会において選任する。</p> <p>ただし、母校(旧制中学を含む)の卒業生で現に母校の教職員である者および過去に教職員であった者は、第5条第2項の規定にかかわらず、この項においては「通常会員」とみなす。</p>	<p>(役員の選任)</p> <p>第10条 役員の選任は、次のとおりとする。</p> <p>1. 略(変更なし)</p> <p>2. 会長、副会長、会計、書記、会計監査は、通常会員の中から総会において選任する。</p>
<p>(総 会)</p> <p>第18条 総会は、定期総会と臨時総会に区分する。定期総会は毎年度終了後6か月以内のできる限り早期に開催する。</p> <p>臨時総会は、(以下変更なし)</p>	<p>(総 会)</p> <p>第18条 総会は、定期総会と臨時総会に区分する。定期総会は、毎年度終了後3か月以内で開催する。</p> <p>臨時総会は、(以下変更なし)</p>
<p>付則の2 この規約の変更は、平成21年6月20日から施行する。</p>	<p>新設</p>

会費納入のお願い



数十年前の古い「きずな」を見ても、「会費納入のお願い」が出ています。同窓会の金欠病体質は慢性的なのかもしれません。

許年度も実質的には赤字でした。これを何年も繰り返すわけにはいきません。国の財政と同じです。どうなるかという、事業を縮小していくこととなります。最後には、この「きずな」も発行停止になることでしょう。ちなみに、本誌がモノクロ版となったのも予算の関係です。

このような事態を避けるために、会員の皆さま、今年度の会費納入をよろしくお願い致します。この「きずな」に同封した用紙により、郵便局またはコンビニでお振込みください。過去の払い忘れた分までお願いしているわけではありません。今年度分の2千円をお願い致します。

第2号議案

2008(H20)年度 決算報告書
(2008年4月1日～2009年3月31日)

収入の部	2008年度 予算	2008年度 実績	対予算実績 (実績-予算)	備 考
前期繰越金	425,688	333,135	▲ 92,553	
入 会 金	1,170,000	2,303,913	1,133,913	2008年234人と2009年227人の卒業生
年 会 費	3,500,000	3,041,585	▲ 458,415	1617人分
雑 収 入	100,000	1,913,921	1,813,921	資金調達、祝い金、名簿売り上げ
合 計	5,195,688	7,592,554	2,396,866	
支出の部	2008年度 予算	2008年度 実績	対予算実績 (実績-予算)	備 考
総 会 費	100,000	177,128	77,128	総会日の懇親会費、来賓の交通費
本 部 費	250,000	510,029	260,029	同窓会運営に関する費用
広 報 費	1,700,000	1,806,685	106,685	きずな作成費 17500部
発 送 費	1,700,000	1,785,967	85,967	きずな発送費ほか
行 事 費	220,000	217,010	▲ 2,990	校歌祭費
山 荘 費	500,000	500,420	420	2008年度黒菱山荘への助成金
新 会 員	136,000	128,940	▲ 7,060	卒業生への記念品
母 校 援 助	100,000	482,252	382,252	学校案内用フォルダ6500枚ほか
予 備 費	489,688	0	▲ 489,688	
次期繰越金	0	1,984,123	1,984,123	
合 計	5,195,688	7,592,554	2,396,866	

運営基金 会計報告書

前期繰越金	15,961,714円	
収入計	30,539円	
内訳	預金利息	30,539円
支出計	1,800,000円	
内訳	2008年に80万円 2009年に100万円	資金調達
当期繰越金	14,192,253円	

上記の通り、2008年度会計収支を決算して報告いたします。

会 計 森 雅 夫
会 計 道 家 正 昭

上記会計収支決算を監査した結果、適正であることを認めます。

2009年4月 日 会計監査 佐 藤 健
会計監査 橋 飼 明 弘

2008(H20)年度 黒菱山荘会計報告書
(2008年4月1日～2009年3月31日)

収入の部	金額	備 考
助 成 金	500,000	同窓会より助成金
宿 泊 費	348,000	黒菱山荘利用料
受 取 利 息	360	受取利息
寄 付 金	4,422	寄付金
合 計	852,782	
支出の部	金額	備 考
交 通 費	84,700	乗車券、特急券、高速道路料、リフト代他
通 信 費	31,702	電話代、切手、はがき、郵送料
光 熱 水 費	153,154	水道代、プロパン代他
会 議 費	98,730	月例会議、総会懇親会、山寮協議会懇親会費
会 費	5,000	山寮協議会年会費
修 繕 費	12,384	設備関係補修費等
備 品 費		什器備品費、鍋釜等
雑 費	176,819	ゴミ処理費、お土産、お見舞い、消耗品
借 地 料	150,000	借地料
修 繕 準 備 金	140,302	黒菱山荘修繕準備金へ(平成20年度一般会計残金)
合 計	852,782	

次年度繰越金 382,469

上記のとおり平成20年度の会計報告を致します。
平成21年3月31日 黒菱山荘委員会
会 計 広 坂 晶 子
上記の会計報告を審査致しましたが、適正であることを認めます。
平成21年4月1日 黒菱山荘委員会
会計監査 今 井 克 博

第4号議案

2009(H21)年度 予算書案
(2009年4月1日～2010年3月31日)

収入の部	2008年度実績	2009年度予算案	対前年度実績(実績-予算)	備 考
前期繰越金	333,135	1,984,123	▲ 1,650,988	
入 会 金	2,303,913	1,135,000	1,168,913	2009年度卒業生分
年 会 費	3,041,585	3,000,000	41,585	
雑 収 入	1,913,921	20,000	1,893,921	
合 計	7,592,554	6,139,123	1,453,431	
支出の部	2008年度実績	2009年度予算案	対前年度実績(実績-予算)	備 考
総 会 費	177,128	20,000	157,128	
本 部 費	510,029	300,000	210,029	
広 報 費	1,806,685	1,700,000	106,685	
免 送 費	1,785,967	1,800,000	▲ 14,033	
行 事 費	217,010	200,000	17,010	
山 荘 費	500,420	500,000	420	
新 会 員	128,940	140,000	▲ 11,060	
母 校 援 助	482,252	500,000	▲ 17,748	
予 備 費	0	15,157	▲ 15,157	
次期繰越金	1,984,123	963,966	1,020,157	
合 計	7,592,554	6,139,123	1,453,431	

一度は同窓会の規約を読んでください!!

同窓会は一定の組織として社会に認められた存在ですが、法律的には、いわゆる「人格なき社团」として、単独で法律行為ができないこととされています。しかし、中間法人の制度化という動きの中で、同窓会も非常利の中間法人に取り込まれることが予想されます。こうなりますと、組織を縛る規定も、「仲よしクラブ」のようなお粗末な規約では済まなくなります。

本会では、この問題を展望して去る平成15年に規約を変更しました。以下にその全文を掲載いたしましたので、ぜひ一読をお願いします。なお、本年の定期総会で規約の一部変更が議案となっていますが、ここには変更前の現行規約をお示ししております。

東京都立石神井高等学校同窓会規約(平成15年12月6日一部変更施行)

(名 称)

第1条 この同窓会は、東京都立石神井高等学校同窓会(以下「本会」という。)と称する。

(目 的)

第2条 本会は、会員の親睦と連携を図り、もって東京都立石神井高等学校(以下「母校」という。)の発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

1. 広報誌(きずな)の発行
2. 会員名簿の作成・発行
3. 同期会、クラス会および各クラブ・同好会のOB会等への支援
4. 「父母と教師の会」との意見交換および相互の協力
5. 講演会、懇親会、行事等の企画運営
6. 前各号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するために必要な事業

(事務所)

第4条 本会は、事務所を母校(東京都練馬区)に置く。ただし、事業遂行のために必要な事務を、母校以外の場所において行うことができるものとする。

(会 員)

第5条 本会は、次に掲げる者を会員とする。

1. 母校ならびに東京都立石神井中学校(旧制中学)の卒業生およびこれらの学校に在籍したことのある者のうち本会へ入会を希望した者(以下これらの者を「通常会員」という。)
2. 現に母校の教職員である者および過去に教職員であった者(以下これらの者を「特別会員」という。)

(会員の権利義務)

第6条 会員は、本会の事業活動につき、その便宜を受ける権利を有するとともに、この規約および総会の決議に従う義務を負う。

(入会手続および入会金)

第7条 通常会員は、入会に際して別に定める手続を経て、入会金を納入するものとする。ただし、平成15年12月6日現在で通常会員である者は、入会手続を完了したものとみなす。

(会 費)

第8条 通常会員は、総会決議の定めるところにより、会費を納入するものとする。

(役員の種類および人数)

第9条 本会に次の役員を置く。

- | | | | |
|----------|------|---------|------|
| 1. 名誉会長 | 1名 | 4. 会 計 | 3名以内 |
| 2. 会 長 | 1名 | 5. 書 記 | 3名以内 |
| 3. 副 会 長 | 5名以内 | 6. 会計監査 | 3名以内 |

(役員を選任)

第10条 役員を選任は、次のとおりとする。

1. 名誉会長に、母校の校長が就任する。
2. 会長、副会長、会計、書記、会計監査は、通常会員の中から総会において選任する。

(役員職務)

第11条 役員職務は、次のとおりとする。

1. 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ役員会で定めた順序に従い、その職務を代行する。
3. 会計は、会長の指示により本会の会計を管理する。
4. 書記は、本会の諸通知、記録および資料保存等の事務を担当する。
5. 会計監査は、本会の会計を監査する。

(役員任期)

第12条 役員任期は、名誉会長を除き2年とする。ただし、再任を妨げない。

(役員会)

第13条 役員会は会長、副会長、会計、書記、会計監査をもって組織し、会長が必要と認めるときに、これを開催する。

(役員会の職務)

第14条 役員会は、この規約に別段の定めがあるもののほか、次に掲げる事項を決議する。

1. 総会に付議する事項
2. この規約の変更に関する事項
3. 総会において、役員会に委任された事項
4. 前各号に掲げたもののほか、本会の運営に関して会長が必要と認められた事項

(幹事および幹事会)

第15条 通常会員は、卒業年次別に原則として2名の幹事を選任し、会長へ届け出るものとする。

幹事は、その卒業年次の同期会、クラス会等の開催に尽力する。

幹事は、幹事会を組織し、本会の運営に関する問題を審議するとともに、役員会へ出席し意見を述べる事ができる。幹事会内規は別に定める。

(参 与)

第16条 本会に参与を置くことができる。参与は特別会員の中から会長がこれを委嘱する。

参与は、本会の重要問題の審議に参加し意見を述べる事ができる。

(顧 問)

第17条 本会に顧問を置くことができる。顧問は歴代会長および役員会が承認した者とし、会長がこれを委嘱する。

顧問は、会長の諮問に応じ、意見を述べる事ができる。

(総 会)

第18条 総会は、定期総会と臨時総会とに区分する。定期総会は、毎年度終了後3か月以内に開催する。

臨時総会は、会長が必要と認めるとき、役員会の承認を得て、これを開催することができる。

(総会の付議事項)

第19条 総会は、この規約に別段の定めがあるもののほか、次に掲げる事項を決議する。

1. この規約の改定。
2. 事業報告および事業計画案
3. 収支決算および収支予算
4. その他特に重要な事項

(総会の決議)

第20条 総会の議事は、出席した会員の過半数をもってこれを決する。

(経 費)

第21条 本会の経費は、入会金、会費、寄付金その他の収入をもってこれに充てる。

(事業年度)

第22条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(細 則)

第23条 この規約の施行に必要な細則は、役員会の決議を得て会長が別に定める。

付 則 この規約の変更は、平成15年12月6日から施行する。

教育支援基金の事業運営にご理解を

この事業においては、皆さまから寄せられた資金を、その目的に沿って使わせていただいております。そのため、事業運営に透明性の維持が不可欠であり、同窓会は、以下のような内規を設け、厳正な運営に努めています。

教育支援基金事業運営規則

(目 的)

第1条 この「教育支援基金事業運営規則(以下「規則」という)は、2008年(平成20年)6月開催の定期総会で決議された教育支援基金事業(以下「事業」という)の運営に関して必要な事項を定める。

(事業の実施期間)

第2条 基金の募集期間は2011年(平成23年)3月31日までとし、この日において、基金に未使用の資金のある場合は、次年度のなるべく早い時期に最終の支出方法を決定、事業を結了するものとする。

(運営管理委員会)

第3条 事業の執行および資金管理のため、運営管理委員会(以下「委員会」という)を設置する。

(委員会の構成)

第4条 委員会は、会長、副会長および母校の校長、副校長、経営企画室長をもって構成する。

(委員会の運営)

- 第5条 委員会の主管者は会長とする。
- 会長は校長と協議し、必要に応じて委員会を開催する。
 - 委員会は基金の年度毎の予算・決算を定め、基金支出案件の可否を決定する。
 - 委員会における議案の採決は、出席委員の意向を踏まえ、会長および校長、両者協議の上決定する。
 - 委員会には会長、副会長以外の本会役員および各期幹事、顧問、参与、その他の本会関係者の参加を認めることとする。
 - 委員会開催の都度、その日時、出席者名、議案、決定事項等の記載ある議事録を作成するものとする。

(特別会計の設置)

- 第6条 この事業に関し拠出を受けた資金の収支を明確にするため、「基金特別会計」を設置する。
- この特別会計で管理される資金は、事業目的外に使用してはならない。また、他の会計間との流用・混用を禁止する。
 - この特別会計の資金管理のため、金融機関に「教育支援基金」名義の預金口座を設置する。

(経費の支出禁止)

第7条 いかなる名目によるも、この特別会計から本事業に要する経費を支出しないものとする。

(事業監査人)

- 第8条 事業運営に関する助言、監督を受けるため、会長は本会顧問等の中から事業監査人を委嘱する。
- 事業監査人は委員会に出席し意見を述べることができる。

(基金拠出者名簿)

第9条 基金拠出者の住所、氏名、金額、および母校卒業生については卒業年次を記録し、その名簿を保管する。

(収支決算)

第10条 会計年度の終了ごとに、当該年度の事業収支を決算する。この決算においては、前年度からの繰越金、年度内の収入金額、支出金額およびその内容、次年度への繰越金額を明らかにしなければならない。

(報 告)

第11条 各年度終了後、最初に開催される総会において、事業報告および収支決算報告を行なうとともに、広報誌「きずな」にその報告内容を掲載する。

(規則の改正)

第12条 この規則の改正は、役員会の決議を経て会長がこれを決定する。

(付 則)

第13条 この規則は、2008年(平成20年)8月5日から施行する。

以 上

『同窓会の輪』の動き

2008年3月、都立高7校(井草、大泉、立川、豊多摩、富士、武蔵丘および本校。順不同)で発足した「同窓会の輪」は、本年度に2回会合し、情報交換を行なった。

第2回

と き: 2008年10月18日(土)~19日(日)

と ころ: 黒叢山荘

参加者: 大泉5名、母校10名

(校長、教員4名、役員2名、同窓生3名)

2回目となる今回は、多数の希望から黒叢山荘を会場として開催した。参加者が少なかったことは残念だったが、最高の天気にも恵まれ、トレッキングを楽しみ、このようなすばらしい環境と施設を、現役の生徒、教職員の方々に大いに利用してもらうようアピールすることになった。



第3回

と き: 2008年12月2日(火)

と ころ: 石神井倶楽部(北青山)のレストラン「あおしま」内

参加者: 井草、大泉、立川、豊多摩、西、富士、武蔵丘および本校

今回から、西高校が新規参加し総勢8校となり、会合は大いに盛り上がった。話題の中心は、同窓会への加入が任意となったことによる加入者数の減少という問題である。他の同窓会は70%前後の入会率であるという。各校とも全員加入を課題としているため、本会のように毎年の加入率が概ね100%であることに対して質問が集中した。本会が実施している学校との連携活動が注目された。

なお、次回の幹事校は、大泉、井草に決まった。

寺島政一先生から教育支援基金に多額の拠出を頂戴しました。

総会でもご報告しますが、基金のスタート後間もなく、先生から20万円の拠出を受けました。早速、校長から御礼のお電話をしたところ、明るいお声で「ささやかなことしか出来ません」というお言葉がありました。満93歳の先生は、まだまだお元気で、今でも同期会には登壇なら出席したいとのこと。36年開校められた本校への思い入れが深く、我々は先生のお人柄に感激しました。本当に有難く、厚く御礼申し上げます。



牧野正敏先生ご逝去

1947(昭和22)年から36年間、母校国語科の教諭として教鞭を執られた牧野正敏先生は、本年3月24日肺炎のため逝去されました。享年86歳でした。

教員間もない時期から36年の長い歲月、石神井一筋で過ごされた先生ですから、思い出を持つ卒業生は大勢いることと思います。15年ほど前に胃の手術をされており、以後ご養生を続けていらっしゃいましたが、去年までは読書などされてお元気の様子でした。奥様のお話によれば、今年の正月に転倒し股関節を骨折されたことから、ご家庭が急に変ったとのことでした。

「牧野先生の思い出」 藤原 健(高3回)

昨年の「きずな」に先生の思い出話を書いたものですから、詳細に驚いています。先生は心優しいお人柄でした。個人的には教壇に立つ先生より、図書部(現在の図書館)の部長であった先生どのお付き合いのほうの方が長かったと思います。在校中も卒業後も、先生のお宅へ頻りに出入りし議論風発、その上で麻雀、トランプ、百人一首などで遊んだものです。

7年前の夏、同期の石島、古川、白井、田中(実)君と一緒に、信州にある先生の別荘をお訪ねしました。とても喜んでいただき、昔話に花を咲かせたのも、今となっては懐かしくもあり、あれが最後の別れとなったことに、寂しさを感じます。

今の私があるのは、先生のおかげであり、ご冥福をお祈りします。



山荘通信 ～黒菱山荘今日この頃～

山登りを3K(きつい、きたない、くらい)と称して、若者から嫌われた時代もありました。それでも白馬へ行ってご覧なさい。アルプスの尾根を眺め、高山植物の花々に囲まれたら、きっと白馬の鷹(どりこ)になるでしょう。そこには同窓会の「山荘」があるのですよ。

浦川 伸一 [高32回、副会長、山荘委員会委員長]

皆さんが本誌「きずな」を手にする頃、黒菱山荘のある長野県白馬村は新緑もまぶしく、一年で最もすがすがしい季節を迎えています。新幹線の開通は、かなり昔のこととなりましたが、今では高速自動車道の均一料金導入もあり、白馬は一層身近な存在になりました。最近の黒菱山荘は、同期の集まりや、親しい友人同士、そして家族一緒での利用と、利用者の範囲が広がっています。

今般、山荘委員会の役員である久保木健太郎(高45回)さんから、後援のようなお便りがありましたのでご紹介します。

久保木さんは、この山荘で一年下の奥さんに出会い、子供に恵まれ、山荘ライフを楽しんでいます。つまり、20代から60代、70代と、幅広い年齢層の卒業生に利用されているのが、この山荘の特徴で、母校の「きずな」を感じることのできる場所だと思います。

先日、同期会で花見をした時も、山荘の話題が出て、この夏に何名かで避暑に行こうという話になりました。真夏でも26度程度ですから、すがすがしい夏を送ることができます、現地まで車で直接行けるから便利なのです。

山荘委員会副委員長の泉木祐二(高33回)さんが、母校で化学科の教諭に就任されてから、スキー部の合宿が定着し、現役生の利用が徐々に増えています。往年の山荘教室のような大人数での行事とまではいきませんが、現役と卒業生との交流の場を提供できることは委員会としても嬉しい限りです。

不況の影響を受けないのが山荘のいいところ。安価に利用できるこの山荘で、たまにはスローライフを楽しんでみてはいかがでしょうか。

山荘利用を希望される場合は、

母 校 03-3929-0831 化学科 泉木

または 03-3385-8996 (泉木)

までお問い合わせください。

久保木健太郎 (高45回)

私が初めて山荘に行ったのは卒業直後の3月でした。友人と3人で行きましたが、そこには20名程の先輩方がいらっしゃいました。先輩方とはやはりあのネタ、体育祭ネタですぐに打ちとけることができました。

年代は違っても、そこは同じ石神井高生だったもの同士といった感覚でした。今でもはっきり覚えていることは、その夜のメインディッシュが若鶏のクリーム煮だったことです。大人数で食卓を囲み、食べ終わると次から次へ各先輩方が得意な料理(つまみ?)を作りながらの夜はあっという間に過ぎ、朝まで語り合いました。それは本当に楽しく、残念ながら、すでに浪人が決まっていた私は、来年こそは大学入学を果たして、その輪に入れてもらおうと決意したものです。

その後、大学生となった私は友人と後輩の子供を誘い、山荘の仲間に入れてもらうようになりました。休みのたびに山荘に行き、先輩方に人生における大切な事を教えていただいたのです。

そんな山荘も15年ほど経ち、最近は様変わりしてきました。昨年の2月の連休には42名の入荘者があり、そのうち16名は子供で、中にはゼロ歳児の赤ちゃんまでいたのです。昼間は幼稚園や保育所のような空間。しかし、夜はやはり昔からの楽しい空間がそこにはあります。初めて来た方もまた必ず来ますと言ってください。

みんなで食事の用意をワイワイして、冬場なら雪かきもみんなで作ると、止まらなくなってしまうほど楽しい、そんな山荘で出会った仲間、一緒に過ごした仲間は、きっと生涯の友人になると思います。



《母校の近況報告》

2年生の沖縄修学旅行報告

泉水 裕二 (高33回 本校教諭)

本校2年生は、1月末に沖縄への修学旅行に行っていました。この数年の恒例行事となっています。見学場所には、例えば摩文仁の丘の平和祈念公園・資料館、ひめゆり部隊の宮城喜久子さんの講話、佐喜間美術館、美ら海水族館等のはか体験学習もあって盛り沢山でした。中でも3日目の夜の「琉球古典音楽・舞踊の夕べ」は、この修学旅行のために特に計画された催しでありまして、参加者全員忘れられない思い出となりました。

これは沖縄在住の本校第42回卒業生菊田さおりさん(旧姓梅崎)の所属する三線教室「野村流古典音楽保存会・宮城吹出古典音楽教室」、琉球舞踊の「宗家筑地名(まじきな)本流 眞薫結(しんくんゆい)の会」、太鼓の「光史(みつふみ)流太鼓保存会」の方々総勢17名の出演で行われたものです。出演者の中には当地の高校生が3名もいました。

この日は、古典の「かぎやで節」、「四つ竹」、民謡の「浜千鳥」、「谷茶前」、新しいものでは「童神」など多彩な演目を演奏していただきました。後半になると「眞薫結の会」の方のご指導で生徒たちも踊りの輪を作り、「安里屋ユンタ」や「カチャーシー」で身体を動かしたものです。

生徒たちにとっては、初めての古典音楽、舞踊を真剣に聴き聞いていました。本校の先輩が目前で演奏し、自分たちと同年輩の沖縄の高校生が踊りや演奏に加わっていたことにも心を惹かれるものがあったことでしょう。沖縄の伝統芸能は彼等にとって新鮮なものだったようです。

最後は、演奏の定番であるカチャーシーで締めくくりましたが、舞踊のお師匠さんの掛け声に乗せられて、声を出したり、楽しそうに踊りの輪に加わる生徒も出て、大変盛り上がりました。

このような演奏会が実現した契機は、本校の細田伸昭先生(化学科、今回の旅行担当者)と菊田さんが、同じ野村流古典音楽保存会の東京での三線教室に所属しており、偶然のことで菊田さんが本校卒業生であることが判明したことにありました。これが縁となって、本校生徒の沖縄修学旅行の際に本場の三線

今年の1月29日から三泊四日の日程で2年生が沖縄へ修学旅行に行きました。ハイライトは「琉球古典音楽・舞踊の夕べ」という演奏会を見聞したことです。この催しを進めてくださった人は、菊田さおりさん(旧姓梅崎)という本校42回卒業生であります。沖縄に在住し演奏活動のほか幅広い事業をされているとか、卒業生の活躍ぶりを知るのは嬉しいことです。演奏会の実現には同窓会の教育支援基金も後押ししました。

ミニ演奏会ができないのかと相談していくうちに、菊田さんの尽力があって、本格的な演奏会が実現することになったわけでもあります。

菊田さんの二人のお兄さんも本校卒業生という石神井一家です。彼女は東横国立大学で異文化コミュニケーション、国際基督教大学で日本語教育を専攻したとのこと。その後、アルバイトをしながら全国を回り、3年前にヤンバルクイナの保護活動をされているご主人とともに沖縄県国頭村安田に移り、3人の子供さんを育てながら、天然酵母パンやお菓子の製造販売をされています。

今回の演奏会が成功裡に終わり、本校生徒の熱心に聴いている姿に、三線教室の皆さんも大変喜んでおられるとのこと。菊田さんも「卒業して20年も経ち、このような形で母校に貢献できて嬉しい」と言っています。

最後になりましたが、今回のこの演奏会については、出演者への謝礼を同窓会の教育支援基金から出していたいただきました。まさに本校の「きずな」が形となったと思っています。有り難うございました。

なお、国頭村安田小学校では山村留学を受入れています。興味のある方は安田小学校のHPをご覧ください。



◎生徒の活動状況

今、母校の生徒諸君はどうしているでしょうか。新校舎と改修されたグラウンドなどで、勉強やスポーツに励んでいることでしょうか。そうそう、社会に目を向けることも大切です。これは母校で教鞭をとる泉水先生のレポートです。



①生徒会

校内での生徒活動だけでなく、校外においてもいろいろと活動しています。昨年はボランティアで、近隣の施設『やすらぎの杜』の運動会や文化祭のお手伝いをしました。また、文化祭の売上金を『あしなが育英会』『ユニセフ』『ワールドビジョン』に募金しました。

②体育祭

5月30日（土）グラウンドの改修により以前のように広くなったグラウンドで体育祭が行われ、生徒達の頑張る姿が見られます。この「きずな」がお手もとに届く時期ですが、ぜひ見に来てください。



③文化祭

9月20日（日）～21日（月）

去年から新校舎で文化祭をやっています。校舎に垂れ幕をかけたたり、部長会でクラブ紹介コーナーを設けたり、体育館での招待試合を復活させたりといろいろなことに取り組んできました。今年も多くの新しい試みにチャレンジしたいと考えています。是非、いらして下さい。



グラウンド工事が完了しました。

去年の9月から行われていた改修工事は3月に終了し、3月26日に部活動等での使用が開始されました。当初、その前日に予定されていた「お清め」の儀式は天候の関係で開始当日の朝に行われました。これからは、以前のように広いグラウンドで授業にも行事にも、そしてまたクラブ活動にも大いに利用されることとなるでしょう。

今年度は、サッカー・ラグビー・ソフトボール・テニスなどの大会が予定されています。クラブ活動における本校生徒の活躍ぶりは、学校の公式HPをご覧ください。随時アップしています。

（文、写真とも泉水裕二さん）



サッカー部で頑張っています

有坂 哲 (高46回)



ここまでの約10年間、外部指導員としてサッカー部に関わらせてもらっています。二十代の半ばに、母校サッカー部のコーチを辞めて約2年間、中米大陸のコスタリカという国でプレーヤーとしてサッカーをしていたのですが、その地で見た十代の子どもたちの、生き生きとした姿に感動しました。

誰かにやらされているわけでもなく、自分がやりたいからやっている。そういう人の発する空気はやはり伝わるものだとこのことを改めて教えてもらった気がします。

生徒が自主的に関わることの多い母校にも、そんな空気が流れていると思います。

校舎の改装とグラウンド改修で校庭が使えない間、数多くの外部施設の使用を余儀なくされた際の、同窓会からご支援を賜り、また今回は教育支援基金でグラウンドの防球フェンスを購入して戴きました。感謝しています。

これからも、私はサッカー部のために貢献したいと思っていますので、引き続きよろしくお願ひします。

母校サッカー部の外部指導員をしている有坂哲さんから、お便りがありました。高校サッカー全国大会への出場も夢じゃない、期待しています。

2009年度 母校教職員の人事異動

転出

長年のご指導
有り難うございました。
お元気で。



職名・教科	氏名	転出先等
校長	福本 雄吉	退職 小平南高校非常勤
国語科	高田(山口) 暎咲子	区立九段中等教育学校
地歴科	中田 民夫	竹 早 高 校
公民科	榎 直哉	退 職
数学科	吉野 清一	退職 富士高校非常勤
保健体育科	富永 一哉	八 丈 高 校
音楽科	北神 純一	新 芸 術 高 校
英語科	齋藤 牧子	清 瀬 高 校
情報科	野田 大介	大 泉 桜 高 校
司 書	益田 博子	退 職
経営企画室長	重田美奈子	西部支援センター

転入

はじめまして。
どうぞよろしくお願ひします。



職名・教科	氏名	前任地等
校長	小池 幸彦	浅 草 高 校
国語科	飯塚 智子	新 規 採 用
公民科	西沢 幸子	六 本 木 高 校
数学科	梶田 典理	新 規 採 用
保健体育科	鎌田 重行	板 橋 高 校
音楽科	片野 響子	新 規 採 用
英語科	山崎 聡子	千 早 高 校
英語科	武田 若菜	新 規 採 用
情報科	山田 邦吉	江 戸 川 高 校
副 校 長 付	梶野 茂男	若 葉 総 合 高 校
経営企画室長	上野 政明	肉 園 高 校

お元氣かしら、あの先生

ふと思う、今あの先生どうしていらっしゃるか、お元氣だろうか。今回は鶴岡弘弘さん（高18回）に教師を訪ねてもらいました。



亀崎 正夫 先生（昭和39年～昭和60年 数学）

ご経歴 昭和39年に鳥山工業高校から本校へ赴任（在籍21年）、その後小金井北高校で定年を迎え、嘱託として小平南高校で5年勤める。当時はまだ在任期間の長い先生が大勢いて、自分も最後まで本校に勤めるつもりでいたから、昭和60年の制度変更で移動になってしまったことが残念無念であった。

思い出 赴任間もなくのこと、生徒会役員のリコール問題が発生、署名簿を最初に受け取った。この事件を契機に生徒会活動が自主的に行われ、また学校行事の運営についても生徒会が積極的に参画するようになった。体育祭の応援歌が団毎に作られたりしたのもこの頃だと記憶している。さらにその後昭和45年には大学紛争の波が石神井にも押し寄せ、バリケード封鎖やハンガーストライキがあった。この影響で制服がなくなったというようなこともあった。この2つの出来事は、赴任して間もない時期のことであったためか、強烈な印象として残っている。

今は… 教員生活を十分やり尽くしたという思いがあり、現在は毎日散歩をするくらいで特に何もやっていない、いわゆる「悠々自適」の生活をしている。身体の動く限り同期会などには出席したいと思っている。

菅野 禮行 先生（昭和38年～昭和42年 古典）

ご経歴 昭和38年に雪谷高校から本校に赴任（在籍4年）、その後東京学芸大学附属高校から大学に転身、和歌山大学、静岡大学、東京成徳大学で教鞭を取った。

思い出 あのガタバシの本造校舎と石炭ストーブが忘れられない思い出。当時の本校には旧制中学の雰囲気が残っていて熱気に溢れ、「大泉に負けるな」ということでよく勉強していた。また厳しい体育の授業についていった頑張りも印象に残っている。

今は… 数年前に腰を痛めて手術をしたが、後遺症でほとんど外出できない状態が続いている。昭和63年に「平安初期における日本漢詩の比較文学的研究」（大修館書店）で文学博士号を取得、今後も「日本漢詩」をライフワークとして完成させていきたい。（注 この他に小学館から出版されている「新編日本古典文学全集」第19巻（和漢朗詠集）及び第86巻（日本漢詩集、共著）執筆されている。）

三戸 孝 先生（昭和37年～昭和63年 世界史）

ご経歴 昭和37年に大泉高校から本校に赴任（在籍26年）、その後城東高校で教鞭を取る。昭和45年の学園紛争の後、教壇に立つ一方で放課後や土曜日などを利用して石神井・大泉地区で近現代史と時事問題の講演に力を注いだ。教師は井の中の蛙であってはならず、積極的に外に出ていかないといけないと思っている。

思い出 本校では教員の勉強会が盛んで、飲み会もよくやって教育談義に花が咲いた。また生徒も明るくスポーツやクラブ活動に盛んに取り組み、このような自由闊達で伸び伸びとした雰囲気が好きだった。

今は… 退職後も講演を続けていたが、平成19年に脳梗塞で倒れ、現在は好きなお酒もやめて週2回のリハビリ中。最近では近くの体育施設で足・腰の訓練をしたり、図書館に通ったりができるようになり、今年中に講演活動を再開できるように頑張っている。

還暦満1歳

成瀬 豊 (高18)

ドイツ在住の成瀬豊さん(高18回)からお便りが届きました。技術の国と言われるドイツで、日本人の技術が高く評価されているのですから嬉しいじゃありませんか。石神井OB頑張れ！です。

今年の3月で無事に還暦満1歳になりました。高校時代には自分の還暦以降の姿など想像だにしていなかったものでしたが、もう61。しかし、この「きずな」の時期になると過ぎ去った時間は凝縮されて、当時と現在が違和感なく一体化してしまう不思議さを感じるのです。

昨年2月に38年勤めた会社を卒業してセカンドステージに進み、20年ほど手を染めていた車の挙動とタイヤ技術との境界領域という研究が縁で、ケルンにある小さな会社の技術アドバイザーとして1年を過ごしました。「境界領域」というと、難しそうに聞こえますが、要は車も部品の集合体。足回りもタイヤに始まり多くの部品でできています。これら部品のつながり方と車の挙動が深く関係しているというわけで、同じ車でも安定性や運動性能が全く変わる、その要因は何か、というようなことをやっておりました。

会社は小規模ですが、ドイツ各地や隣国から市場では処理できない足回りに問題を持つ車が持ち込まれ、その問題解決をやっている技能集団です。従って、彼らの手に負えないものが私の所に持ち込まれるので、現役時代同様「なぜ・なぜ」の追求ですが、問題を解決した時のお客さんの笑顔に充実を感じるひとときを過ごしています。

日本人は私1人。ドイツ語もダメなままですが、なんとか1年が過ぎ、新しく作ったブランドなども浸透してきて、将来を楽しみにしている所です。

住んでいる場所はケルン郊外の自然保護区の中にある人口5千人ほどの小さな村。日本人は1人だけですが、周囲の人たちのおかげで、お茶に誘われたり、クリスマスや年越しに招かれたり、外国にいる事を意識しない生活をおくっています。また、機会を見つけてはお互いの国の文化などを語り合い、相互理解を心がけています。彼らも日本の文化には興味を持っていますので、文化や歴史の話は良い茶飲み話の題材です。当地の5月～6月は最高の季節。今年も木陰でビールを飲みながら、茶のみならぬビール談義をと思っています。



同期会・クラス会の開催を「きずな」がお手伝いします



幹事の方をお願いします。開催が決まったら、会の名称、開催日時、場所、会費、幹事名、連絡先等をお知らせください。3月末までに通知いただければ、次回の「きずな」発行時に掲載します。

同窓会への連絡は、文書、ファックス、メールでお願いします。宛先は、本誌1ページに掲載している同窓会事務局宛です。

東京校歌祭にお出でになりませんか



あなたも、第17回東京校歌祭(主催 東京校歌祭振興会)に出演してみませんか。日時は10月4日(日)、場所は日比谷公会堂の大舞台です。古い校歌(旧制中学)と現在の校歌、どちらでも得意の歌に声張り上げてみましょう。きっと気分が晴れやかになります。終わってからの反省会がまた楽しいですよ。

集合時刻と場所については同窓会のHPをご覧ください。事務局にお問い合わせください。なお、服装は自由ですからお気軽に、ご家族連れも歓迎します。

古稀を過ぎては

鬼澤 英雄（高8回）

七十の坂を登り始めるともう連続するしかないのじゃないですか。皆さん、人生これからですよ。飲む、打つ、入る（温泉に）、まだまだやれます。

「古来稀なり」の大台70歳を同期生一同、無事に通過してもう年齢の尊称は飽きてきた。卒業以来半世紀、いつの間にか長寿時代の仲間に入り有難いことだ。72歳と言えば、パー72に挑戦して、エージシューターを夢見たものだが、体力の衰えは甚だしく、最近は何叩きも普通になって来て、もうとても高望みは不可能だ。

母校も校舎が新しく近代化へと変わり、入学当時の木造教室から思うと隔世の感がある。建設に至るまでの皆さん方のご苦労には深く感謝するばかりだ。少子化からくる学校の統合や廃止が盛んな折だけに、存続の意義は大きく嬉しい事です。

8期生の動きも、ゴルフや旅行、懇親会と定期的に楽しんでいます。埼玉県を中心にゴルフを年3回、旅行は前回、鬼怒川温泉を楽しみ、また近いうち都心の高層ビルで、夜景をさかんに懇親会が計画されるとか。うう、ご期待です。



私の生涯学習

木村 静子（旧姓：石ヶ守 高17回）

高齢化社会では、現役を退いてからの生き方が大切になります。人生の早い時期から本業以外の分野にも関心を持ったほうが良いようです。

ご無沙汰しております。

近況報告ということで、今やっていることを申しあげます。

元來、手仕事が好きでした。公務員として在職中の10年前から、自由に創造性を表現できるクラブのフックドラッグを知り、これにハマってしまいました。フックドラッグは日本ではまだ、それほど知られていませんが、北米ではかなり知られています。

早期退職をして小さなスタジオを建てました（場所は西武新宿線・花小金井駅から徒歩で6分の所）。現在、生涯学習を推進するために Association of Traditional Hooking Artists（アメリカ最大のラグフッキング協会）と地元の様馬区手芸家連盟に所属しています。

どんなにITが進んでも人間の手の温もりを感じさせることは不滅と思います。もし、興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ご連絡ください。

e-mail: fibarkk@tk2so-net.ne.jp

また、私のスタジオの周りのことを綴ったブログ Studio Kanons Diary を書いています。

URL: <http://sun.ap.teacup.com/senjukanon>

ご覧になっていただければ幸いです。



どなたか、ホームページの運営を手伝ってくださいませんか。

麗々しく、同窓会のホームページを盛り上げて、ご覧になればわかるとおり、極めて憂慮すべき惨状です。この方面に興味をお持ちの方、ぜひ、力を貸してください。

ご意向を同窓会事務局にお伝えくだされば、こちらからご連絡さしあげてご相談します。

「寺沢先生の真価」 佐藤 健 (高3回)

—— ガントレと言われた荒っぽい体操の授業。私には怖い先生だったけれど…… ——

テラコンこと寺沢乾二先生は、昭和18年から56年までの38年間、本校で教鞭を執られた名物教師でした。恐らく、在職期間で最長不倒距離を記録されたのでありませんか。

体育の先生のお話ですから、虚弱で体操が苦手だった私が語るのには不適当です。体育会系の武闘派諸兄のご執筆がまず望まれるところであります。私が言えることは、あの「しごき」のような授業だけです。

あれは、本当にひどかった。四つん這いにさせて別の1人に両足を持ち上げさせる。藪草のような格好で校庭を這い回らさせられたものです。

1時間も走らせられたこともありましたよね。ある日、我々は反逆しました。先生の号令を無視して一団となって裏門を駆け抜けたのです。そして「行っちゃえ」「行っちゃえ」の掛け声の中を公園を目指して走りつづきました。

昭和24年当時、あの公園には施設らしいものは何もなく、我々は池のほとりで足を投げ出し休息です。暫くして、先生が 追いついてきました。「お前らどうしたんだ？」と怒った口調でしたが、唇がニヤニヤ笑っているものだから、拍子抜けしたような顔付きになり、「今日の授業はこれまで。解散！」と仰いました。

しかし、授業のことよりも、無頼派の豪傑教師としての印象のほうが強烈でした。なにしろ「のんべい」で通っていました。当時の池袋駅周辺は薄汚い屋台が立ち並ぶ飲み屋街でした。未成年の我々には縁のない場所ですが、そのころもヨタった生徒はおりまして、その方面の事情に詳しい彼らから、テラコンは毎晩のように池袋駅界隈で飲み歩いているという情報が伝わってきたものです。

私の思い出とは、このように平凡な話ばかりで個人的には特別なことはありません。その私が寺沢先生は思いやりのある優しい先生だったのだと気がつくのは、卒業後半世紀も過ぎた数年前のこと

となのです。同窓会の役員会で渡されたCDに収録されている先生の声を聞いたからです。

このCDにある先生のお話とは、昭和55年の第32回の卒業生に対する、はなむけの「お言葉」であります。肺ガン手術直後の病気療養中の頃のように、体力の衰えを感じさせるお声ですが、私は聞いているうちに胸が熱くなるような思いになりました。

先生はまず「君らは親の庇護のもとで3年間貯蓄してきたのだから、これからは親に返していかなければならない」と、親への感謝の気持ちを忘れるなど仰います。だから、君らは自身でよく考えて正しい行動をとることが大切だと言います。

次に、大学受験のことに関し、首尾よく合格した生徒には、与えられた天性をもって上級校の課程を進んで行って欲しいと祝福します。そして、「不運にも目的を達せられなかった者もあるだろうが、1年や2年の遅れにクヨクヨすることなく、常に実力を養成していくという意識をもって、また頑張ってください。君らの前途は洋々たるものがあるのだ」と慈愛に満ちた言葉を述べられているのです。

最後は全員に対するはなむけの言葉として、くれぐれも健康に留意して青春を謳歌してほしい。自分には君らの両親の喜びが胸に浮かぶと結んでいます。

私の表現力では、先生のお話の内容や印象を過不足なくお伝えすることはできませんが、ちょっと苦しそうなきづかいの中で、訥々と語るお言葉に感激しない者はいないだろうと感じました。

今の教育委員会の物差しで測れば、教師不遇格の烙印を押されそうな先生ですが、卒業生が、何十年も実社会の経験を積んだ頃になって、やっとその有り難味を感じることでできる先生であったのだと思います。

原稿や写真を募集しています

卒業生同士の交流を深めるため、お便りをお待ちしています。随想、創作、近況、身辺雑記など形式は自由です。千字程度以内でお願いします。

氏名、卒業年次を明記して同窓会事務局へお送りください。

同期会・クラス会の終了後には、会の名称、開催日、場所、会費、出席者数と全員の氏名、幹事名等を同窓会事務局までお知らせください。



2010年度版会員名簿刊行のお知らせ

同窓会では5年ごとに会員名簿を更新しています。来年は2010(平成22)年度版を刊行する時期となりました。すでに、そのための準備に入っており、近く名簿作成を委託している(株)サラトから、お問い合わせの書状が届きますので、必要事項をご記入の上、ご返送くださいますよう、お願いします。

最近、個人情報保護法の施行などにより、この種の名簿作成について慎重ないしは批判的な声がかかることは事実であります。

しかしながら、同窓会活動を充実、継続していくには、会員同士の連携、親睦を図ることが何よりも大切であり、それゆえ会員名簿の役割は重要であると考えます。加えて、この問題に関して、内閣府国民生活局が配布している「広報ちらし」には、個人情報を適切に管理することを条件に「同窓会名簿の作成は可能です」との文言が載っています。

こうした情勢を踏まえ、本会は協議を重ねた結果、全国の多数の同窓会名簿の作成に実績のある(株)サラトに業務を委託することと致しました。

つきましては、より正確な名簿作成のため、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名簿の刊行は来春を予定しており、価格は1部4500円であります。

ぜひ、お買い上げくださいますよう、併せてお願いします。また、名簿への賛助広告も歓迎しますから、ご意向のある方は、同窓会事務局にご一報ください。

「二八の法則」とは

佐藤 登(高3回)

受け売りだから、マユにツバをつけてお読みください。誰かの文章に「二八の法則」というのが述べられていたのです。これは、一つのグループの中の人間を一定の特性、例えば、「有能」であるかどうかというようなことで分類すると、そうである人とそうでない人の割合は大抵は2対8になるといいます。10人の集団があるとすれば、その中で有能な人は2人程度で、2対8の割合だから「二八の法則」というわけです。

であるとするれば、逆に無能か否かという尺度で見ると、無能な人が全体の2割はいることになりませんが、面白いことに、有能な人を10人集めてグループを作ると、その中で有能な人は、やっぱり2人程度であって、ダメな人間が8人であるといえます。

反対に、フダ付きの無能社員を集めて集団を作ると、必ず、その中からグループを引っ張るような有能人材が出てくるとも言うのです。なるほどと思いました。自分の経験からしても納得できることであります。当時まだ現役でありまして、企画部長であった時、社内に10人程の新しい組織を作ることになりましたので、私は「二八の法則」を応用しようと思いました。本部や各支店で持て余しているようなD級社員だけを選んで人事案としました。この中から、NHKの番組「プロジェクトX」で取り上げられるようなデカイ仕事をやってくれる人物が必ず出て来ると考えたわけです。

この人事案を見て社長が怒りましたね。「貴様、ウチの会社を潰す気か」とカンカンでした。社長は、この法則を知らなかったのでありましょう。私はカ

会費が集らなくても、同窓会が倒産する心配はありません。借金が無いからです。でも、もう少しあればいい仕事ができるのに、と思うのは事務局長の希望です。

ネをかげずにダメ社員を2人減らし、積極社員を2人増やす、つまり差し引き4人の戦力アップを図ったつもりでしたが、やむなく無難な人事案に差し替えました。お蔭でその部署は成果のあがらないまま、数年のうちに解散してしまいました。

母校関係にこの法則が適用できるでしょうか。同期(高3回)の仲間で、現在住所のわかっている人は約100人です。1951(昭和26)年の卒業時には220人であったのが、半世紀以上の歳月を経て、消息不明の人が半数を超えてしまいました。

それで、この「ご健在」の100人に連絡を出して何かお願いをしたとします。例えば、新校舎が落成したから祝賀会に来てほしいという通知を出したとすると、迅速に反応して出席の可否を示してくれる人は20人ほどなのです。つまり、100人というグループの中で2割ですから、ここでも「二八の法則」は適用していると考えられます。しかし、「二八の法則」が普遍的に真理かという点、そうでもないらしい。同窓会費を納入してくれる会員は、全体の2割どころか、1割にも満たないのですから、ここでは「一九の法則」になっております。同窓会の台所を預かる事務局として、なんとか「二八の法則」が通用するような状態にならないものかと悩んでいる今日この頃であります。

事務局からのお願い



『きずな』をお届けするにも問題が多いのです

本誌『きずな』の発行・配布は、同窓会の最重要事業であります(規約第3条第1号)。同窓会の収支で見ると、『きずな』の制作・発送費は約350万円、総支出額の6割を超えています。会員から頂戴する年会費の半分以上が『きずな』のために使われていると言えるのです。

支出の大部分を広報費に回しているのですから、同窓会の財政状態は非常に苦しい状況にあります。しかし、問題は収支関係に止まりません。会員各位に『きずな』をお届けするについて、次のような問題があるのです。

1. 卒業生の中には、『きずな』の送付を迷惑に思っている人がいます。ご意向を文書でお示しくださいば、以後の配布を止めることが可能ですが、そういう事例は稀でありまして、恐らく沢山の本誌が廃封もされず、読まれもしないまま、ゴミ箱に直行しているのではないのでしょうか。
 2. 物故された方に配布して、ご遺族から「余計なことをしてくれるな」とお叱りを受けることがあります。その一方で、時には「故人の思い出になるから、引き続き送ってもらいたい」というご希望も聞えてきます。会員死去の知らせが事務局に寄せられることは稀でありまして、これにどう対応すべきが悩ましい問題になっています。
 3. 最大の問題は、年会費未納の会員が9割を超えるという実態にあることです。つまり、年会費を納入している会員の負担で、未納者にも『きずな』が配布されていることになりまして、このような状態を続けてよいものか、事務局は頭を悩ませています。
会員2万4千人の転居、改名、本人死去など個々のご消息を的確に把握することは至難のことです。そこで、当面できることとして、会員の皆さまに次のようなお願いを申しあげ、ご理解ご協力を戴きたいと考えています。
- ① 『きずな』の送付を希望しない方は、お手数ですが、郵便「はがき」またはF a xで事務局宛てにご連絡ください。次回から発送を止めます(ただし、総会開催の通知もできなくなることをご了承願います)。
 - ② 住所変更や改名・改姓などのあったときは、その旨を郵便またはF a xで事務局宛てにご連絡ください。『きずな』が「未着」で戻ってきますと、「住所不明者」となって、それ以後の『きずな』は発送されなくなります。
 - ③ 会員の死去については、ご遺族から通知されることを期待するわけにもいかないので、同期の方あるいは親しかった方からのご連絡が何よりのこととなります。もし、そのような情報をお持ちでしたら、事務局にご一報ください。事務局で事実を確認したうえで、名簿等を修正します。

編集後記

ひと言で本誌「きずな」の特徴を言えば顔字、脱字の多かったことです。母校の名簿に係わることで、名簿が迷宮校に、伝統校は転倒校になってしまっただけではなからうかと心配する人もいらっしやるでしょう。多年の弊害を一掃すべく、今年私が編集を引受けて「誌面刷新」を試みました。なんと、悔そうに言っているけれど、大したことをやっただけじゃない。独断と偏見にまみれた誌面構成にしたただけです。ついでに、寄稿してくれた方々の文章も勝手に手直ししましたが、これはあくまでも編集上の都合です。失礼の段お許しくださいませよ。

もちろん、今号の文責の一切は編集担当の私にあります。逃げも隠れもありません。ご意見ご批判を遠慮なくお寄せください。

(佐藤 健)

注意

石神井高校同窓会が名簿刊行を委託している業者は(株)サラトです。同社以外の者から、調査カードや購入申込みの用紙(はがき等)が来ても、石神井高校同窓会とは一切関係がありませんから、くれぐれもご注意ください。